

拡大するアジアのクルーズ市場に注目！ ～クルーズ SHIPPING アジア～

シンガポール事務所

2013 年 10 月 9 日と 10 日の 2 日間、シンガポールにおいて、クルーズ関連のコンベンションである「クルーズ SHIPPING アジア」が開催されました。成長が続くアジアのクルーズ市場とクルーズ客船誘客に向けた取り組みについてレポートします。

1. 拡大するアジアのクルーズ市場

クルーズ市場はこれまで地中海やカリブ海周辺が中心でしたが、アジアの経済成長や観光市場の成熟に伴い、アジア市場の今後の成長が期待されているところです。現在は世界のクルーズマーケットにおけるアジアのシェアは 10%に満たない程度ですが、2012 年に 120 万人だったアジアのクルーズ人口は、2017 年には 370 万人、2020 年には 700 万人に増加することが見込まれています。

今回のカンファレンスの中でも、人口が多く、経済成長が著しい中国でのクルーズ客の増加や、今後の富裕層の拡大が期待されるインドネシア、インドなどでのクルーズ人口の拡大の予測が取り上げられるなど、伸びしろの大きいアジア市場の成長に期待が集まっている様子を感じられました。

アジアのクルーズ市場に成長の期待が集まっているとはいえ、現在はまだ導入段階にあるのがアジアのクルーズ観光の状況です。欧米型のクルーズ旅行は、長期間の船旅を船内でゆっくりくつろぐ、という形態が多いのに対し、アジアのマーケットでは、2～3泊や 4～6泊の、比較的短いクルーズが 75%程度と非常に高い割合を占めています。クルーズ船への期待も国や地域によって異なることから、マーケティングや情報発信が重要となっているようです。

2. 寄港地としての魅力の向上

アジアは多くの島々を有し、温暖な気候でビーチなどのアトラクションが多いと言われていますが、多くの寄港地においてクルーズ船を誘致しようとしのぎを削っています。

以前から言われていることですが、大型船に対応可能な港の整備が行われていることはもちろん、観光地としての魅力を有していること、入国審査がスムーズに行われること、英語等での観光ガイドや観光バスの手配が可能であることなども寄港地としての魅力を高める重要な要素となっています。また、港と周辺の観光施設・商業施設等との交通アクセスも重要なポイントです。

シンガポールや香港では、今後のクルーズ市場の拡大を見越して、クルーズ客船用の港湾整備が完了しています。シンガポールに昨年オープンしたマリーナベイ・クルーズセンターは、2つのバースを備え、世界最大級のクルーズ船も入港可能であるとともに、チャ

ンギ空港と連携したサービスを提供するなど、旅行者にとって利便性の高い環境が整えられています。

3. 九州への寄港の増加に向けて

九州への寄港増加に向け、展示会部門には、九州運輸局がブースを出したことから、今回のクルーズ SHIPPING アジアには九州においてクルーズ船の誘致に取り組んでいる多くの自治体が参加しました。既に寄港地として利用実績のあるクルーズ会社に対しては、今後の寄港の継続を呼びかけるとともに、新たな寄港地としての魅力を提案することも目的とされていたようです。



九州ブースでの説明等

鹿児島県では 2007 年にオープンした大型埠頭マリンポートかごしまへの積極的なクルーズ船誘致を続けており、今回のようなコンベンションへの参加に合わせたクルーズ船会社へのセールス等を継続的に実施しています。宮崎港では現在、大きな船も入港できるように港湾施設の整備が進められており、将来的には世界最大級のクルーズ船も入港できるようになることから、今回はその PR を積極的に行っていました。

また、長崎県は、従来、港町として多くのクルーズ船を受け入れてきた実績があり、県の重点政策としてもクルーズ船の誘致を進めていることから、観光部署と港湾部署が連携して港の PR を進めているとのこと。既にクルーズ船の寄港実績があるクルーズ社に対しては今後の継続的な寄港を呼びかけるとともに、新たな寄港も取り込むよう PR を行っていました。

なお、日中関係の悪化に伴い、中国を発着するクルーズ船の寄港が減少していることが悩みの種となっているという声も九州各県からの参加者からは多く聞かれました。

4. 多様な寄港地の PR

今回の展示会には、日本からのブース出展は九州からだけでしたが、アジア地域の他国からもクルーズ船誘客のためにブース出展が行われていました。シンガポール政府観光局は、入口付近に大きなブースを設置し、観光地やクルーズターミナルのオペレーション、各国へのアクセスなどアジアのクルーズのハブとなることを PR していましたが、韓国も大きなブースを設けて、2014 年に増築された港がオープンする予定の釜山を含めたクルーズ寄港地を大きく PR していましたが、韓国は、カン



シンガポール政府観光局のブース

ファレンスの中でも釜山港の増改築について紹介していましたが、その他、ブルネイやフィリピンも独自のブースを設けて観光資源や各港のPRを行っていました。

一方で、インドネシアは、前回はブースを出展していたものの、今回は費用的な面から出展は見送り、クルーズ観光担当者がカンファレンスに参加して情報収集やキーパーソンとのコンタクトを取る、という形を取ったとのことでした。



韓国のブース

5. 終わりに

クルーズ船誘致による観光客の増加は大きな経済効果が期待でき、港を有する各自治体のクルーズ誘致に向けての取組はアジア市場の拡大につれて、今後も活発化していくものと考えられます。また、シンガポール政府観光局においてはクルーズを今後の成長分野の一つとして位置付けて積極的な環境整備とクルーズ産業分野の育成を行うなど、積極的な動きも見られます。

こうした動きを踏まえ、今後も市場の動向等に注視しながら必要な情報収集等に努めてまいりたいと思います。

(吉本所長補佐 鹿児島県派遣)

【参考】 クルーズ SHIPPING アジア開催概要

開催日 2013年10月9日～10日

カンファレンステーマ

- ① アジアクルーズ産業の今
- ② クルーズ目的地としてのアジア
- ③ アジアにおけるクルーズ産業の供給
- ④ アジアでの消費者市場の確立
- ⑤ クルーズ寄港地開発
- ⑥ アジアのクルーズ地理
- ⑦ アジアにおける造船と改修

